



# 社会包摂デザイン・イニシアティブの組織構成

アートに力点を置く **ソーシャルアートラボ** と、デザインに力点を置く **シビックデザインラボ**、実践知の体系化を行う **デザインシンクタンク** の3つのラボから構成され、複数のプロジェクトを展開します。社会包摂デザイン・イニシアティブのメンバーは、いずれかに属しますが、プロジェクトを遂行するにはラボの枠を超えてタスクフォースを組みます。また学内外の協力研究員とも連携します。

## 聴覚障害のある人にとってのコンサートのあり方についての実践研究

尾本章(応用音響工学) 長津結一郎(アートマネジメント)他

聴覚障害者の求める音楽コンサートがいかなるものかを明らかにするために、聴覚障害者にとっての「音楽」像に対する理解を質的に整理し、聴者にとっての「音楽」像との接点を探索し、実際に試験的なコンサートを実施します。



## 認知症ケアの場で芸術活動が変化を生み出す仕組み

中村美亜(芸術社会学) 尾方義人(インダストリアルデザイン)他

認知症ケアの場において、即興的で共創的な芸術活動がどんな変化を生み出すかについて、医療・福祉・地域活動の専門家と一緒に、実践と理論の両面から検討し、効果的な活動のデザインを提案します。



## 舞台芸術と音響技術による社会包摂のデザイン

長津結一郎(アートマネジメント) 尾本章(応用音響工学)他

劇場法で提唱される社会包摂の取り組みが未だ拡がりを見せないなかで、劇場を包摂的な環境にするための社会的・技術的観点から見たランドデザインを構築するために、舞台技術者が社会包摂を実践する上での困難を整理し、ハンドブックを作成します。



## ソーシャルアートラボ

## デザインシンクタンク

尾方義人(インダストリアルデザイン)  
中村美亜(芸術社会学) 田中瑛(メディア・ジャーナリズム研究)他

### ◆ DE&I(Diversity,Equity&Inclusion) 宣言に基づく仕組みのデザイン

九州大学で2022年3月にDE&I宣言が発表されたことを受けて、多様性、公平、協働を実現する具体的な仕組みを提案します。

### ◆ デザインプロセスの展示

様々な社会的アクターがデザインの担い手となりつつあることを踏まえ、優れたデザインを展示するだけでなく、どのようにして優れたデザインが作られたのかが見える展示会を企画します。

### ◆ 社会包摂デザイン研究会

(2022年度に4回開催予定)

「社会包摂デザイン」を多角的に考えるために、様々な専門分野を持つ教員や学外の有識者を交えて、「公共」、「配慮」などのテーマについてお話を伺います。

## 自然の循環と協働体の再生のためのアート実践の仕組み — 物語からのアプローチ

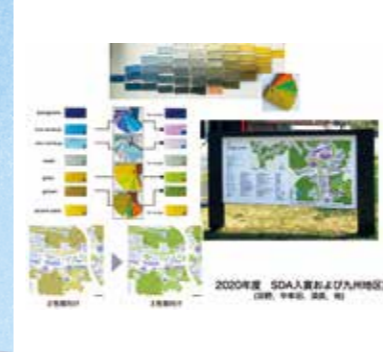
知足美加子(彫刻)他

自然災害による被災者の心のレジリエンスの回復のためのアート実践の一環として、アートによる精神的で能動的な現実経験を「物語」として捉え、意識の繋がりを再生すると仮定した上で、アートを通じた協働を通じた「物語」の創造、共有、伝達のプロセスを検証します。



## 多様な色覚特性を持つ人に伝えるためのデザイン

須長正治(色彩・視覚科学)  
伊原久裕(グラフィックデザイン)  
羽野暁(公共空間デザイン)他



色覚異常と呼ばれる色覚特性を持つ人々に対して、「正常な色覚」を前提に色覚を補正するのではなく、多様な色覚特性を持っている人々を基点とする配色作業やアート活動などの、デザイン手法や仕組みデザインを提案します。

## ジェンダー／LGBTsのデザイン

尾方義人(インダストリアルデザイン) 中村美亜(芸術社会学)他

福岡市男女共同参画推進センター・アミカスと連携して、ジェンダーの新しい啓発の手法の開発や組織間連携の仕組みを検討し、自治体間で異なる「パートナーシップ制度」についても、専門家とともに、仕組みのデザインという観点から再考します。



## シビックデザインラボ

## 多様性に応えるピクトグラムのデザイン

伊原久裕(グラフィックデザイン) 工藤真生(サイン計画、視覚記号)他

標準的な人やメディアへの最適化を目標として「標準化」され、一部の人のために理解しづらくなっているピクトグラムに対し、多様性を包摂するために、人やメディアによって異なるピクトグラムを選択できるスケール(調整)型デザインを提案します。



## 「半農半アート」を基盤とした地域づくりの仕組み

朝廣和夫(緑地保全学) 長津結一郎(アートマネジメント)他

少子高齢化・過疎化に伴い課題が山積する中山間地域などの農村社会で、「半農半アート」のライフスタイルを基盤とした包摂型地域づくりや農業ボランティアの新しい仕組みモデルを形成・提案し、学生が農村での課題と包摂的社会に関する具体的なニーズを知る機会を提供します。



## 音響工学の手法を用いた軽度聴覚障害者サポートの仕組みづくり

村上泰樹(聴覚情報処理)他

聴覚系を支配する規則の発見・聴覚障害の可視化を行います。この取り組みを通じ、軽度聴覚障害への理解を促し、パーソナリティに原因があると判断されて社会的な排除の対象になりやすい軽度難聴者が包摂される社会の仕組みづくりに貢献します。

